

第2期 奈良市  
スポーツ推進計画  
(案)

2024年 月

奈良市

# 目次

はじめに

◆ 第1章 第2期奈良市スポーツ推進計画について	3
1 スポーツとは・・・	3
2 計画策定の趣旨	3
3 スポーツ推進の意義	4
4 計画の位置づけ	4
5 計画期間	5
6 計画推進のための体制	5
◆ 第2章 本市のスポーツを取り巻く状況	6
1 第1期スポーツ推進計画の実績	6
i) スポーツ実施率	6
ii) 第1期スポーツ推進計画の主な取組	7
2 本市のスポーツにおける現状と課題	11
i) 社会情勢の変化	11
ii) 奈良市のスポーツ推進に向けた課題	13
◆ 第3章 スポーツ推進の基本理念と取組	15
1 スポーツ推進の基本理念	15
2 スポーツ推進の基本方針	16
3 成果指標	17
4 スポーツ推進への取組	18

## はじめに

本市では、平成 25 年に奈良市スポーツ推進計画を策定し、だれでも、いつでも、どこでも、ライフステージ、運動ニーズ、運動応力・技能に合わせてスポーツを楽しめる環境を整えるとともに、スポーツ産業を育成し、スポーツを通して地域経済を活性化することにより、まさにスポーツ文化を普及させ、スポーツを支える環境を整えることで、スポーツを推進してまいりました。

このたび、この計画の期間が終了することに伴い、スポーツを取り巻く環境や社会情勢の変化を捉え、本市の現状や課題を整理し、国のスポーツ基本計画や県のスポーツ推進計画の内容を踏まえて「第 2 期奈良市スポーツ推進計画」を策定しました。

スポーツは世界共通の文化であり、健康や体力の維持増進、子どもの心身の健全な発達、人と人の交流による地域のつながりの醸成のほか、夢や感動をもたらし、本市の魅力の向上やさらには地域経済の活性化など多くの効果があります。

今後もこれらのスポーツの持つ力を最大限活用し、第 2 期奈良市スポーツ推進計画に基づき、市民だれもがスポーツに親しみを持ち、スポーツを楽しみ、スポーツで地域振興を図ることにより、スポーツによるまちづくりを進めて参ります。そのためには、行政だけでなく、市民の皆様や地域、各種スポーツ団体がそれぞれ主体となって、相互に協力・連携を図りながらスポーツを推進することが重要となりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたりご審議くださいました奈良市スポーツ推進審議会の委員の皆様をはじめ、市民や関係者の皆様に貴重なご意見、ご提言をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

令和 6 年 月

奈良市長 仲川 げん

## ◆ 第1章 第2期奈良市スポーツ推進計画について

### 1 スポーツとは・・・

スポーツ基本法では、「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定義されています。また、「全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適正等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない」とスポーツはより身近なものであり、またその権利についてもうたわれています。

そこで、本市では「スポーツ」の概念を幅広く捉え、ルールに基づき勝敗や記録を競うものだけではなく、身体を動かす遊びやレクリエーション、健康づくりのための散歩やウォーキングなども含め、自発的に楽しむ身体活動全てをスポーツとして捉えていきます。

### 2 計画策定の趣旨

国において、平成 22（2010）年 8 月に「新たなスポーツ文化の確立」を目指し国のスポーツ政策の基本的な方向性を示す「スポーツ立国戦略」が策定され、その後、平成 24（2012）年 3 月に「スポーツ基本計画」が策定されました。

令和 4（2022）年 3 月には、「第 3 期スポーツ基本計画」が策定され、第 2 期スポーツ基本計画の基本方針に、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」という 3 つの新たな視点を加えるとともに、これらの視点を支え、東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けた総合的かつ計画的に取り組む施策が示されました。

本市では、スポーツ基本法に基づき、平成 25（2013）年に「奈良市スポーツ推進計画」（以下「第 1 期スポーツ推進計画」という。）を策定し、5 年が経過した平成 30（2018）年にそれまでの取組を点検するとともに計画の一部見直しを行い、本市のスポーツ推進のための施策を展開してきました。

令和 5（2023）年度で「第 1 期スポーツ推進計画」の計画期間が終了しますが、これまでの間に取り組んできたスポーツイベントの開催や施設の整備など様々なスポーツ活動の推進を今後も継続させることに加え、時代の流れに沿った考え方・施策を取り入れていくほか、第 1 期スポーツ推進計画策定以降におけるバンビシャス奈良（バスケットボール）の B リーグ参戦、奈良クラブ（サッカー）の J リーグ参入などのプロスポーツが地域にもたらした新たな価値をより一層向上していく必要があります。また、奈良県においては令和 13（2031）年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、これを契機とし

たスポーツの振興・推進、スポーツを通じた地域の活性化、本市の様々な魅力の全国への発信が重要となっています。

そこで、令和6（2024）年度以降もさらなるスポーツの推進を図っていくため、「第2期奈良市スポーツ推進計画」を策定しました。

### 3 スポーツ推進の意義

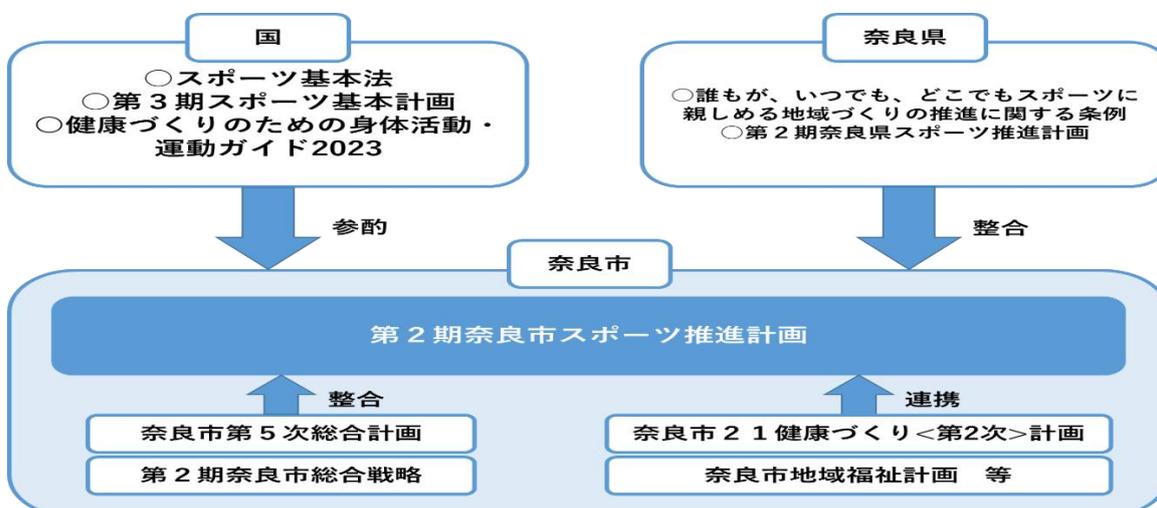
スポーツに親しむことによって、体を動かすという人間の本源的な欲求を充足するとともに爽快感、達成感、他者との連帯感等、精神的な充足も図れ、体力の向上やストレスの発散、健康の維持・増進など、心身両面にわたる健康の保持・増進につながります。さらに、他者を尊重する意識や協調性、自立性や公平さを学ぶ態度、実践的な思考力や判断力を育むといった青少年をはじめとした健全育成にも大きな影響を与えます。

また、スポーツを親しむ人が増えることで、人間関係の希薄化等の問題を抱えている地域社会の再生などの地域コミュニティの醸成や、健康保持・増進による健康寿命の延伸や医療・介護費用の削減・抑制、スポーツ産業の振興による地域経済の活性化などの効果が期待できます。

このように、スポーツを推進することでスポーツを行う個人が楽しみ、喜びなどを得られるだけでなく、地域課題の解決へのつながりも期待できます。

### 4 計画の位置づけ

第2期スポーツ推進計画はスポーツ基本法に基づき、「第3期スポーツ基本計画」の目指す方向性や趣旨を参酌し、上位計画である「第5次奈良市総合計画」や国の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」、奈良県の地方スポーツ推進計画である「奈良県第2期スポーツ推進計画」との整合を図った上で、本市の実情に即したスポーツに係わる基本計画として策定します。

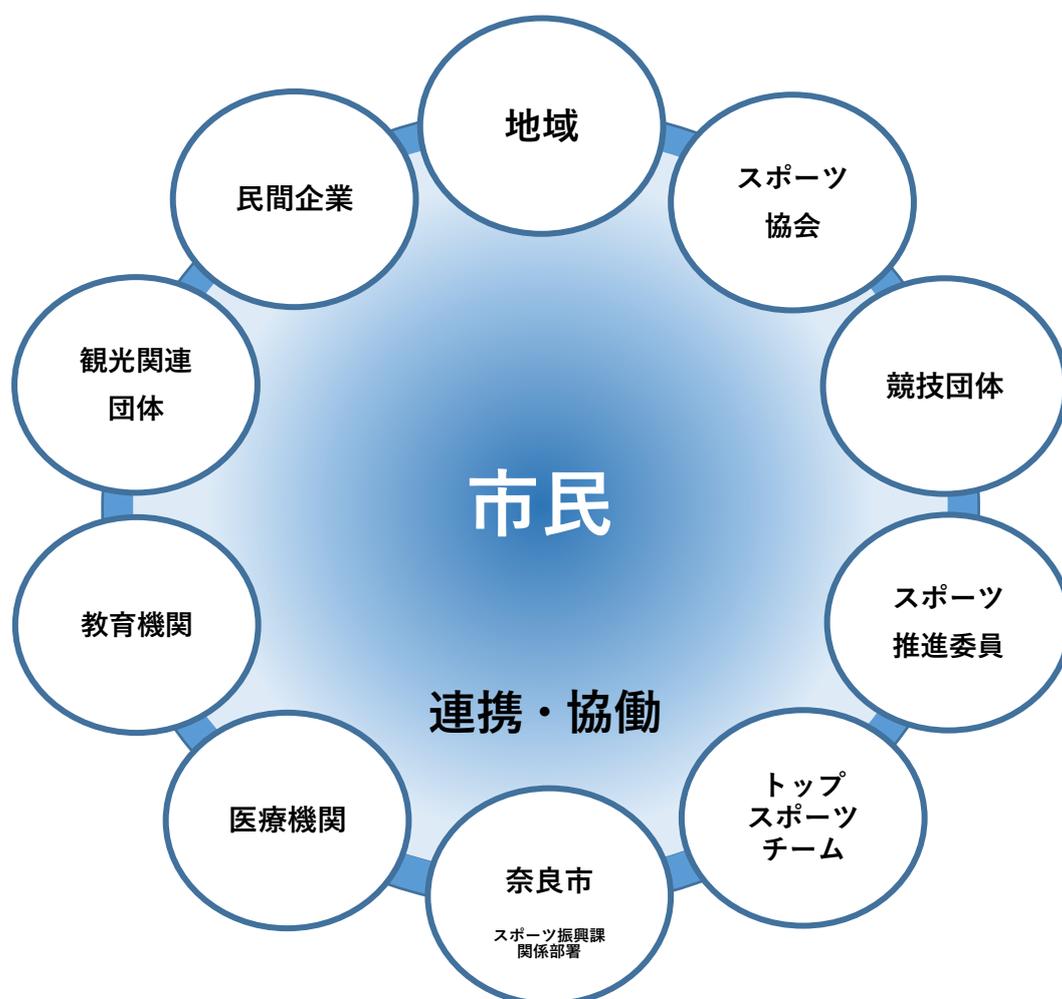


## 5 計画期間

計画期間は、令和6（2024）年度から10年間とします。ただし、計画期間中の本市のスポーツを取り巻く状況や社会情勢等の変化に対応するため、おおむね5年後に見直しを行います。

## 6 計画推進のための体制

本計画で定めた目標を達成するため、教育や健康医療、福祉、観光部門など様々な庁内部署、スポーツ協会や各競技団体、スポーツ推進委員、トップスポーツチームなどのスポーツ関連団体、民間企業や医療機関、観光関連団体と連携・協働して計画の実現を目指します。



## ◆ 第2章 本市のスポーツを取り巻く状況

### 1 第1期スポーツ推進計画の実績

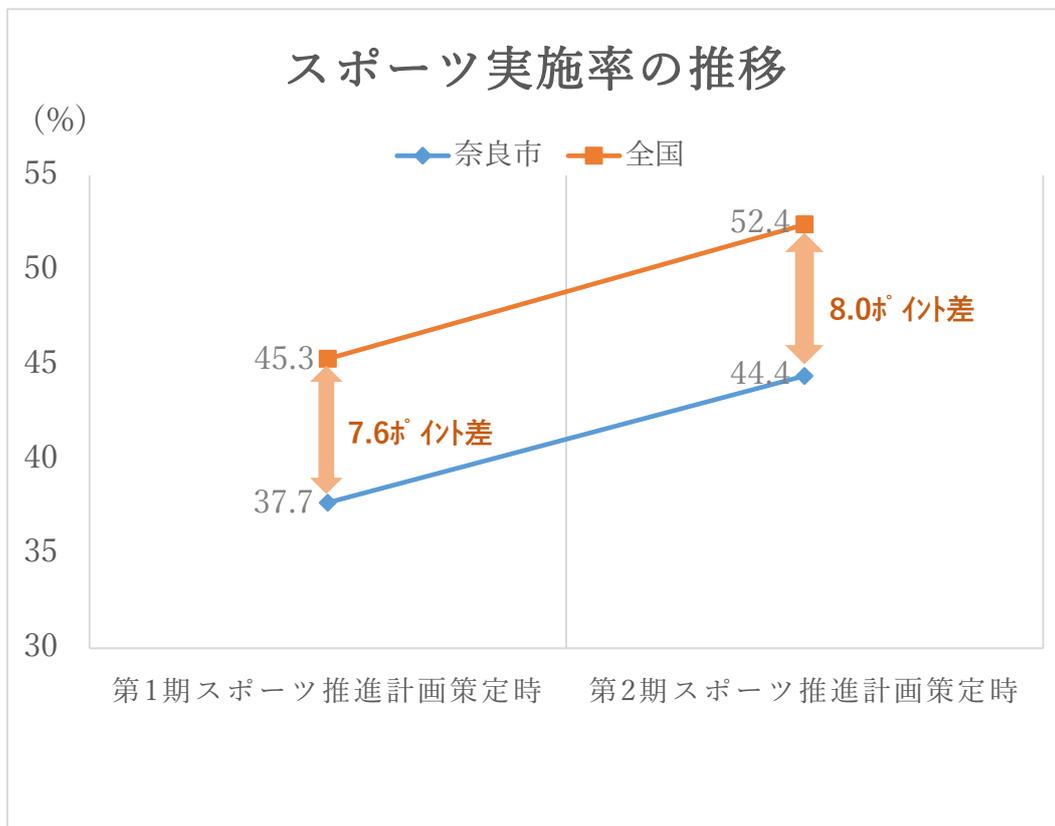
#### i) スポーツ実施率

第1期スポーツ推進計画では施策の成果を測定する指標を様々設定しました。その中でも第1期スポーツ推進計画における基本理念や基本方針の成果を確認するうえで一番重要と考えられるのが「1回30分以上、週1回以上運動習慣のある人の割合（以下、「スポーツ実施率」という。）」です。

第1期スポーツ推進計画策定時（平成23年度）に市民を対象として行ったアンケートによると、当時のスポーツ実施率は37.7%で、平成21年の国の世論調査によるスポーツ実施率45.3%を7.6ポイント下回っていました。

令和4年度に実施した市民を対象としたアンケートでは、44.4%と前回は6.7ポイント上回りました。一方で、令和4年度の国の世論調査によるスポーツ実施率は52.4%であり、本市との差は8ポイントと、平成23年度より広がっています。

第1期スポーツ推進計画の取組などにより、本市におけるスポーツ実施率は上昇したものの、国全体でも上昇しておりその差は広がっています。



## ii) 第1期スポーツ推進計画の主な取組

第1期スポーツ推進計画では、まち全体でスポーツを推進し、スポーツ活動が活発になることにより、まちの活力と魅力が向上する、またその活力と魅力がさらなるスポーツ推進へとつながっていくといったまちづくりの良い循環を作り出すことを目指し、「スポーツでまちづくり」を基本理念に掲げ、2つの基本方針に沿ってスポーツ推進に係わる施策を展開してきました。基本方針に沿って主な取組内容を取り上げます。

### ①基本方針1：市民のスポーツ活動の推進

基本方針1では、誰でも、いつでも、どこでも、ライフステージ、運動ニーズ、運動能力・技能に合わせてスポーツを楽しめる環境を整えることを目的として施策を実施してきました。

#### ◆既存施設の有効利用

休館日にスポーツ教室の開催やバンビシヤス奈良の公式戦を行うことで休館日を少なくしました。また、鴻ノ池陸上競技場に夜間照明を設置することで夜間利用を可能とし、施設の利用時間の拡大を図りました。

平成28(2016)年10月からは、鴻ノ池運動公園及び同公園内スポーツ施設のネーミングライツ(命名権)を導入し、安定的な財源を確保することにより、施設の良好な運営に努めています。



鴻ノ池陸上競技場夜間照明

#### ◆学校開放の拡充

市立小、中学校の体育施設について、学校教育で利用している以外の時間について地域に開放し、社会体育の利用に供しました。

#### ◆ウォーキングコースの整備

鴻ノ池運動公園内のウォーキングコースへの照明設置や路面の整備などを行うとともに、ランニングコースの新たな整備やランニングステーションを設置し、市民の健康維持・増進に貢献しました。



鴻ノ池運動公園内ランニングコース

#### ◆時代のニーズに合わせた施設の改修・改善

各スポーツ施設のトイレの洋式化を進めています。また既存の照明をLED照明に変更することでランニングコストの削減や二酸化炭素排出量を抑制しています。

さらに、遊びの要素を取り入れた「アーバンスポーツ（都市型スポーツ）」が若者や子どもの間で広がりを見せており、従来から整備を求める声に加え、東京 2020 大会を契機としたスケートボード熱の高まりも背景として、鴻ノ池運動公園内にスケートボードパークを整備しました。



公園内LED照明



スケートボードパーク

#### ◆スポーツ教室の拡充

スポーツに触れる、親しむ機会を創出するためのスポーツ教室について、市民や時代のニーズに合った内容に変更しながら拡充し、定期的に行いました。

#### ◆ニュースポーツの拡大支援

スポーツ推進委員が県内外の研修に参加して習得したニュースポーツを、各地域で開催しているスポーツ教室において実践し、市民への普及に努めています。

#### ◆トップアスリートとの交流

Top Sports City 奈良のパートナーチームが集まり行うイベント「Enjoy スポーツ大作戦」を開催し、トップアスリートとの交流の場を設けるなどして子ども達がアスリートを目指すきっかけを創出しました。また、トップスポーツチームによる学校巡回教室も実施し、選手による実技指導や講演等を通じて、体を動かすことの楽しさやスポーツの素晴らしさ、夢や目標を持つことの大切さを児童・生徒に伝えました。



TopSportsCity 奈良大運動会

#### ◆運動の指導、普及のための指導者の育成・活用

スポーツ推進委員により市内各地域において軽スポーツ等の指導・普及を行い、広く市民にスポーツの推進を図りました。

#### ◆選手育成に向けたインセンティブの提供

本市に居住する選手等が競技大会へ派遣され、優秀な成績を収めた場合に当該選手等に対し奨励金を交付する制度を設け、競技力とスポーツ水準の向上に寄与しました。



表敬訪問の様子

## ②基本方針2：スポーツ産業の振興

基本方針2では、スポーツ産業を育成し、スポーツを通して地域経済を活性化することにより、まちにスポーツ文化を普及していくこと、スポーツを支える環境を整えることを目的とした施策を実施してきました。

### ◆トップスポーツへの対応に向けた施設改善

鴻ノ池陸上競技場については、第一種公認を継続できるように改修工事を行いました。また、奈良クラブがJリーグのライセンスを取得できるようインフィールドの拡張工事や夜間照明の設置などを行いました。

中央体育館については、バンビシャス奈良がBリーグのライセンスを取得できるよう、また観戦環境の向上を図るため大型映像措置の設置や動画配信に対応したインターネット環境の構築など施設設備の整備を行いました。



大型映像装置

### ◆ストリートスポーツを楽しめる場の創出

東京 2020 大会におけるスケートボード競技の盛り上がりもあり、鴻ノ池運動公園内にスケートボードパークを整備し、アーバンスポーツを楽しめる新たな場を創出しました。



スケボー競技の様子

### ◆トップスポーツの観戦機会の拡充

鴻ノ池陸上競技場は奈良クラブのホームスタジアムとして、また中央体育館はバンビシャス奈良のホームアリーナとして公式戦等を行い、市民がトップレベルのスポーツに触れられる機会を設けています。また、両チームの地域貢献活動として公式戦の市民無料招待を行い、地元ของทีมをより身近に感じ、愛着を持ってもらうような活動を行いました。



奈良クラブ市民デーの様子

その他、バレーボールのVリーグ、ラグビートップリーグや女子サッカーなでしこリーグ、女子バスケットボールWリーグなどの試合も開催しました。

### ◆地域によるプロチームの育成、支援

応援フラッグの掲示や、施設利用に対する支援など Top Sports City 奈良のパートナーチームの活動を様々な角度から応援し、支援を行いました。



応援フラッグ

### ③基本方針①②に共通した施策

#### ◆活動機会を紹介する情報の提供

市主催のスポーツイベントや施設の指定管理者が行うスポーツ教室などの開催状況を市のホームページやしみんだより等で広報し、市民に情報を提供しました。

#### ◆トップスポーツを支える情報発信

しみんだよりや市内駅に設置してあるデジタルサイネージにおけるパートナーチームのホームゲーム開催の告知やSNSによる試合情報などの拡散を行い、情報発信を行いました。



デジタルサイネージを活用した情報発信

#### ◆プロチームとタイアップしたまちづくり

パートナーチームのホームゲーム開催時に市役所ブースの出展やハーフタイムでの活動内容の宣伝、イベントの共催、ユニフォームへの「奈良市」の広告掲載による本市のPRや市事業の広報活動を協働して行うなど、まちづくりや地域振興につながる活動を行いました。



ユニホーム広告

#### ◆東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組

オーストラリアを相手国としたホストタウン事業を行い、女子サッカーチームの事前キャンプ地になりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により東京2020大会を契機とした活動を行うことはできませんでした。



女子サッカーオーストラリア代表

## 2 本市のスポーツにおける現状と課題

第2期スポーツ推進計画を策定するにあたり、本市の現状と課題を把握する必要があります。

そこで、スポーツを取り巻く時代の流れを察知することや市民を対象に行ったアンケート結果等から得られた情報により本市の現状・課題を見だし、第1期スポーツ推進計画策定以降の社会情勢の変化やスポーツ推進に向けた課題を取り上げます。

### i) 社会情勢の変化

#### ①新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ施設の利用制限、運動部活動やスポーツ大会、イベントの延期・中止などによるスポーツ活動の減少などが生じました。一方で、スポーツは心身の健康づくりなどによる人々の暮らしを豊かにするもの、人と人のつながりをもたらす地域コミュニティの形成に重要なものと再認識され、スポーツの価値や重要性を改めて感じるきっかけともなりました。

スポーツ自体の在り方も仲間と施設で楽しむものから、一人で自宅でまたはその周辺でも取り組むもの、また動画配信によりスポーツに参加する・見るなど幅広く捉えることが重要となってきています。

#### ②人口減少と少子高齢化の進行

本市の人口は平成17(2005)年旧月ヶ瀬村と旧都祁村との合併時をピークに減少に転じ、令和22(2040)年には29.7万人まで減少すると見込まれています。また、平成27(2015)年には28.7%であった高齢化率(65歳以上人口の割合)は、令和22(2040)年には40%を上回る見込みです。人口減少及び少子高齢化により生産年齢人口が減少し、高齢者の積極的な社会参加がこれまで以上に求められています。このことから、スポーツの果たす役割は、高齢者の健康や生きがいのある豊かな暮らしを支えていくうえで、今後、ますます大きくなっていくと考えられます。

#### ③多様性を認め合う社会の推進

さまざまな人々が、すべて分け隔てなく暮らしていくことができ、障害のある人もない人も、支える人と支えを受ける人に分かれることなく、ともに支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会を「共生社会」と言います。

これからはスポーツの場においても、性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様性を尊重し多様な主体がスポーツに参画できる環境を整えていくことが重要です。

#### ④国際スポーツ大会のレガシー

東京 2020 大会の開催によりもたらされた「する」「みる」「ささえる」に加えた新たな価値、経験、効果などの有形・無形の「スポーツ・レガシー」を継承し発展させていくため、持続可能な国際競技力の向上やスポーツへの関心を活かした地方創生・まちづくりなど、東京 2020 大会のレガシーを施策に取り込んでいくことが求められています。

#### ⑤持続可能な社会の実現

「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）については、国際社会の共通目標であり本市の総合計画においても SDGs のゴールを見据えながら、施策に取り組んでいます。

第 2 期スポーツ推進計画においても、持続可能な社会の実現を目指し、スポーツを推進していくことが重要となります。



SDGs17 のゴール（出展：国際連合広報センター）

## ii) 奈良市のスポーツ推進に向けた課題

### ①年代や世代、性別などを踏まえたスポーツ活動の習慣化

働く世代や子育て世代、女性のスポーツ実施率が他の世代や男性より低くなっています。これらの世代や性別による差は、仕事や育児、家事に優先的に時間を費やすことが原因と考えられます。働く世代や子育て世代などが、仕事や育児、家事の繁忙な中においても、気軽に安心してスポーツに取り組める場や機会を提供していく必要があります。

また、高齢者のスポーツ実施率は高くなっているものの、人生 100 年時代を迎えようとする中で、健康寿命を延ばし、心身の健康づくりや仲間づくり、介護予防や医療費の削減にもスポーツの効果がさらに期待されています。

これらのことを考慮し、年代や世代、性別などを踏まえたスポーツ活動を促進する取組が必要となります。

### ②子どものスポーツへの興味・関心の向上や触れる機会の拡大

本市の小・中学生の体力は、全国平均と比較しても低く体力向上は大きな課題となっています。最近ではテレビゲームやスマートフォンの普及により、それらの画面を見るスクリーンタイムの増加が体力低下の要因の一つと言われています。また、少子化の影響から児童・生徒数が減少し、スポーツ少年団の団数・団員数の減少、中学校部活動の活動部数の減少などスポーツ活動の場も減少しています。

そこで、子ども達がスポーツに興味・関心を持ち、スポーツに触れ、スポーツを楽しむ機会を創出していくことが重要となります。また、生涯に渡りスポーツに継続して親しむための資質や能力を育成していく必要があります。

### ③障害者がスポーツに親しめる環境づくり

本市の障害者のスポーツ活動は奈良市総合福祉センターを拠点とし、スポーツ教室や各種大会、クラブ活動が行われています。

東京 2020 大会による障害者スポーツの気運の高まりを維持し、障害者がスポーツに親しむことの出来る環境づくりが必要です。

#### **④スポーツ活動の場の確保と施設整備**

本市は他の中核市と比較して、スポーツ施設数は平均並みであるものの施設の床面積や敷地面積が狭く、全ての施設が老朽化している状態です。また、市内には県立の体育館やグラウンド、プール（学校施設を除く）も少なく、利用者のニーズに十分に応えられていない状況です。

増設を含めた施設整備や改修、既存施設の有効活用により、スポーツ活動の場を確保していくことが重要です。

#### **⑤スポーツ人材の確保・育成**

競技スポーツ、スポーツイベント、スポーツ教室などの活動機会を拡充していくためには、指導者や運営スタッフの確保が不可欠となることから、様々なスポーツ人材の確保、研修等の実施による育成、活用が重要となります。

また、スポーツの様々な場面を支えるスポーツボランティアの存在も重要であり、地域社会におけるスポーツ振興や健康づくりに貢献する人材としても期待されています。

これからはスポーツを「ささえる」観点から、指導者、運営スタッフ、スポーツボランティアの発掘・育成・定着に向けた取組を実施する必要があります。

#### **⑥トップスポーツチームとの連携、スポーツ産業の発展**

本市には、バンビシャス奈良、奈良クラブ、奈良ドリーマーズ、南都銀行SHOOTINGSTARSといったトップスポーツチームがあり、「Top Sports City 奈良」のパートナーチームとして連携・協力し、スポーツ振興や地域振興への取組を推進しています。

今後も連携を深め、各チームの認知度の向上、地元チームへの愛着の醸成を図るとともに、各チームの試合の観戦者を増加させること等により、スポーツ産業の発展へと繋がる取組が必要です。

#### **⑦国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会への取組**

奈良県では令和 13（2031）年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催される予定で、本市では多くの競技の開催が見込まれます。

これを契機としたスポーツ施設の整備や市民のスポーツへの関心を高め、日常的なスポーツ活動の実施につなげる取組をする必要があります。

## ◆ 第3章 スポーツ推進の基本理念と取組

### 1 スポーツ推進の基本理念

国の第3期スポーツ基本計画において、中長期的な基本方針は踏襲するものの、「する」「みる」「ささえる」に「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の新たな視点を加えてスポーツの推進に取り組んでいくことが示されました。

本市でも、本市の第1期スポーツ推進計画の根本的な考え方は踏襲しつつ、施策に取り組むにあたり国が示す第3期スポーツ基本計画や健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023など、新たな視点も取り入れ発展させていくこととします。

---

### 基本理念：スポーツでまちづくり・ひとづくり

---

第2期スポーツ推進計画においては、第1期スポーツ推進計画の基本理念「スポーツでまちづくり」に「ひとづくり」を加え、「スポーツでまちづくり・ひとづくり」を基本理念とします。

スポーツ活動を活性化させることによりまちの活力や魅力を高め、スポーツによりひとを育むことを推進します。

また、この基本理念に基づき、市民、スポーツに関わる各種団体、事業所等と連携・協力してまち全体でスポーツを推進し、スポーツを生かした地域の活性化を図り、スポーツを柱の一つとしてまちづくり・ひとづくりを進めます。

これらまちづくり・ひとづくりを進め、その結果、まち・ひとによりさらにスポーツの推進につながるといった、スポーツとまちづくり・ひとづくりの好循環が構築されることを目指します。

## 2 スポーツ推進の基本方針

基本理念である「スポーツでまちづくり・ひとづくり」を実現していくため、4つの方針を軸にスポーツ推進に係わる施策を展開します。

### ◆課題と方針の対応について

課 題	4つの方針			
	1	2	3	4
	誰 も が ス ポ ー ツ に 参 加 で き る 機 会 の 創 出	ス ポ ー ツ を す る 環 境 の 整 備	ス ポ ー ツ 人 材 の 育 成	ス ポ ー ツ に よ る 地 域 振 興
i 年代や世代、性別などを踏まえたスポーツ活動の習慣化	○	○		
ii 子どものスポーツへの興味・関心の向上や触れる機会の拡大	○	○	○	
iii 障害者がスポーツに親しめる環境づくり	○	○	○	
iv スポーツ活動の場の確保と施設整備	○	○		
v スポーツ人材の確保・育成			○	
vi トップスポーツチームとの連携、スポーツ産業の発展		○		○
vii 国スポ・全スポへの取組		○	○	○

#### 方針1：誰もがスポーツに参加できる機会の創出

全ての市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会の創出・充実を図ります。また、性別、年齢、障害の有無などを問わず、誰もがスポーツの楽しさや価値を実感し、スポーツを通じた豊かな生活を送ることができる取組を推進します。

#### 方針2：スポーツをする環境の整備

市民だれもが身近な場で、日常的かつ気軽に、安全で安心してスポーツに取り組めるように環境整備に努めます。また、プロスポーツの試合開催や国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向け、選手・観客に快適な環境を提供できるよう整備・充実に努めます。

#### 方針3：スポーツ人材の育成

市民がそれぞれのレベルやニーズに合わせてスポーツ活動を送るために適切な指導を行うことができる指導者の育成・確保に努めます。また、トッププレイヤーやスポーツボランティアなどスポーツの普及に欠かせない人材を幅広く確保・育成していきます。

#### 方針4：スポーツによる地域振興

多くの市民のスポーツ活動やプロスポーツの活動に加え、イベント内容やプロスポーツチームとの連携によるブランディングなど、スポーツマーケティングを行うことで、本市への社会的効果や経済的効果が発揮されるようスポーツの力を活用します。

### 3 成果指標

本計画の達成度を測る指標として、以下の目標を設定します。

成人の週1回以上のスポーツ実施率<sup>※1</sup> **70%以上**

奈良市はスポーツが盛ん・スポーツがしやすいまちと思う市民の割合<sup>※2</sup>

**70%以上**

- ※1 身体を動かす遊びやレクリエーション、散歩、ウォーキングなど自発的に楽しむ身体活動を全て含みます。
- ※2 プロを含めた競技スポーツだけではなく、各地域でのスポーツイベントや大会、市民のスポーツ活動の盛んさとそれらを行う環境も含みます。

#### 4 スポーツ推進への取組

本市のスポーツ推進における現状と課題を踏まえ、スポーツ推進に向けた取組を進めていきます。

##### ◆7つの課題と取組の対応について

7つの課題							取組				
1	2	3	4	5	6	7					
年代や世代、性別などスポーツ活動の習慣化	子どものスポーツへの興味・関心の向上や触れる機会の拡大	親しめる環境づくり	障害者がスポーツに	確保と施設整備	スポーツ活動の場の	確保・育成	スポーツ人材の	連携、スポーツ産業の発展	トップスポーツチームとの	全国障害者スポーツ大会への取組	国民スポーツ大会・
○	○		○								1 市民が参加できるイベント・大会の実施
○	○		○								2 生涯スポーツの推進
○	○		○								3 働く世代、子育て世代のスポーツを楽しむ機会の創出
○			○								4 高齢者向けスポーツの充実
○		○	○								5 障害者がスポーツを楽しむ場の創出
○	○		○								6 児童・生徒のスポーツ機会の充実
○	○		○								7 スポーツの実施頻度が低い層への取組
	○		○								8 スポーツ施設の有効活用
	○		○								9 学校施設の活用（学校開放）と整備
	○		○								10 スポーツ施設の利用利便性の向上
	○		○								11 市民・時代のニーズに合った施設整備
		○	○								12 施設のバリアフリー化
	○			○							13 地域スポーツ活動の指導者の育成・支援
				○	○	○					14 スポーツボランティアの確保・育成
				○							15 アスリートの支援
○	○			○							16 スポーツ推進委員との連携・協働の推進
			○		○						17 トップスポーツへの対応に向けた施設整備
	○				○						18 トップスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信
					○						19 スポーツツーリズムの推進
	○		○	○	○						20 大規模スポーツイベント（大会）の誘致、開催支援
○	○		○								21 スポーツ情報の充実・広報
	○		○								22 新たなスポーツへの取組
			○	○						○	23 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催を契機としたスポーツ施策等の展開

### 取組 1 市民が参加できるイベント・大会の実施

市民が日頃の練習の成果を発揮するとともに競技力の向上を図るため、市スポーツ協会等と連携して市民スポーツ大会や各競技の大会などを開催し、多くの市民が参加できる環境を整えます。

また、スポーツ体験フェスティバルや各種スポーツ教室をより魅力のあるものにするとともに新たなイベントも企画して、多様なスポーツに身近で気軽に参加でき、体験できる機会を創出します。



スポーツ体験フェスティバル

### 取組 2 生涯スポーツの推進

年代、性別、障害の有無などに係わらず、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象としたスポーツ教室やイベントを実施する一方で、年代や体力、関心に合ったスポーツ教室やイベントなどを実施し、スポーツに親しむ機会の充実を図ります。

また、体育館などのスポーツ施設に加え、ウォーキングコースやランニングコース、公園の整備といったウォーキング、ジョギング、体操などの活動に適した整備も進め、スポーツ活動の中核的機能を担うスポーツ施設の基盤整備を行います。



イベントの様子

### 取組 3 働く世代・子育て世代のスポーツを楽しむ機会の創出

働く世代のうち、特にスポーツ実施率が低い 30 歳代が気軽にスポーツに取り組めるように、夜間や休日のスポーツ教室等の実施やより魅力ある内容への変更を推進します。

また、子育て中の親が安心してスポーツに取り組めるように、親子で楽しむことができる運動教室や親子参加型のイベントの充実、また気軽にスポーツに取り組める場の提供を図ります。さらに、働く世代・子育て世代にこれらの取組や健康に関する情報などを提供できるように、広報にも注力します。



### 取組 4 高齢者向けスポーツの充実

高齢者はスポーツ実施率が高く健康や体力づくりにも関心が高いため、今後も継続してスポーツに取り組めるようにスポーツが行いやすい場の提供と、スポーツに参加しやすい仕組み作りを行っていきます。



また、今後迎える超高齢化社会に向け、個々の健康状態に応じて参加できる医療と連携した健康・体力づくり、介護・フレイル予防に繋がる健康増進についてスポーツを通じて行っていきます。



地域のスポーツ活動の様子

### 取組 5 障害者がスポーツを楽しむ場の創出



障害者のスポーツ活動の機会を確保するため、奈良県障害者スポーツ大会や軽スポーツ大会への参加促進、障害の有無にかかわらず参加できるイベントの開催、奈良市総合福祉センター等でのスポーツ教室やスポーツ大会等の充実を図ります。

また、奈良県障害者スポーツ協会や奈良県障害者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者のスポーツを支える人材の育成にも努めます。

### 取組 6 児童・生徒のスポーツ機会の充実



奈良市スポーツ協会を通じてスポーツ少年団の活動を支援し、活動が活発化するよう努めます。また教育委員会とも連携して、小中学校での体育授業や体力づくりの取組を充実します。



加えて、部活動指導員の配置による部活動の活性化を進めるとともに、部活動の地域移行についても学校等と連携・スポーツ少年団体力づくり大会協働して、児童・生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築します。

### 取組 7 スポーツの実施頻度が低い層への取組



40 歳代や 50 歳代の女性などに多いスポーツの実施頻度が低い層に対し、スポーツは特別なものではなく、ウォーキングや家でのストレッチなども含むものと意識付けを行い、身近なところからスポーツを始めるよう働きかけます。

また、医療や教育など他分野との連携によるスポーツ活動への誘引策を実施することで、スポーツ活動の習慣化へ導きます。

## 取組 8 スポーツ施設の有効活用

屋外スポーツ施設への照明整備による夜間の利用拡大など運用面での改善を行います。

また、スケートボードパークの整備をはじめとした施設整備などにより施設自体の魅力を向上させることで、公共施設の名前を付与する命名権（ネーミングライツ）により得られる歳入を増加させ、それを活用し、より良い施設へ整備することで良い循環を生み出します。



ランニングコース夜間照明

## 取組 9 学校施設の活用（学校開放）と整備

市民にとって身近な場所にある市立小・中学校の体育施設の開放を継続して行い、市民にスポーツを楽しめる場所を提供します。

また、教育委員会と連携して学校体育施設の整備を行うとともに、学校開放用トイレについて計画的に整備し、環境整備にも努めていきます。



学校開放用トイレ

## 取組 10 スポーツ施設の利用利便性の向上

指定管理者制度を用いて施設の管理をしていることから、民間のノウハウ等を活用した柔軟な施設管理運営を行います。

また、施設の予約や使用料の支払い方法についてDX化を推し進め、時流にあったシステム構築を行うとともに、施設に付属する駐車場やその他環境の整備も行うことで利用者の利便性の向上を図ります。



## 取組 11 市民・時代のニーズに合った施設整備

本市のスポーツ施設は施設自体だけでなく、設備や備品なども機能が古く老朽化していることから、市民・時代のニーズにあった、かつ計画性をもった施設・設備・備品の整備や改修を行います。

また、若者に人気のあるスケートボードやスポーツクライミングといったアーバンスポーツ等、新たなスポーツの活動場所についても創出できるよう努めます。



## 取組 12 施設のバリアフリー化



全ての市民が本市スポーツ施設等を利用し、スポーツに親しみ、楽しむことの出来るようにするため、計画的に施設のバリアフリー化を推進します。

## 取組 13 地域スポーツ活動の指導者の育成・支援



地域のスポーツ活動における指導者を養成するため、スポーツ活動の指導に関する知識、技能を習得できる講座等を競技団体や大学等と連携・協力して行い、地域で活躍できるよう後押ししていきます。

## 取組 14 スポーツボランティアの確保・育成



大規模スポーツイベント等に欠かせない存在であるスポーツボランティアについて、市ボランティア関連部署や県、トップスポーツチームと協力し、ボランティアの募集や登録、人材育成や啓発を行いボランティア活動が活発になるよう取組を進めます。



ボランティアの様子

## 取組 15 アスリートの支援



アスリートを支え、育成するため、全国・世界レベルで活躍する選手・団体を対象に奨励金の交付や表彰などを行います。

また、地元チームや地元ゆかりの選手を市や地域で応援することで市民の連帯感を生みだし、スポーツで地域を盛り上げることに繋がります。



奨励金の交付

## 取組 16 スポーツ推進委員との連携・協働の推進



スポーツ推進委員の活動を充実させるため、実技研修会の開催やスポーツ教室活動の取組等を支援します。また、スポーツ推進委員と連携・協働して広報活動を促進することで、市民のスポーツ推進委員に対する認知度を高め、自治会等とも協力して市民のスポーツ活動への参加を促しスポーツの推進に努めます。



実技研修会の様子

## 取組 17 トップスポーツへの対応に向けた施設整備



中央体育館ではバンビシャス奈良、奈良ドリーマーズ、陸上競技場では奈良クラブの公式戦、その他各世代の近畿大会等が各施設で開催されていますが、施設の老朽化等により利用ニーズに対応できていません。プロスポーツを含めたトップスポーツの大会・試合を積極的に誘致し開催できる施設へ、計画的に整備を進めます。

## 取組 18 トップスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信



奈良市ホームタウン推進パートナー事業「Top Sports City 奈良」のパートナーチームと連携し、ホームゲームを市内会場で開催します。これにより、子どもをはじめ、多くの市民がトップレベルのスポーツを観戦する機会が増え、スポーツの魅力を感じ、スポーツへの興味・関心を高めるとともに、地元チームへの愛着を深めることに繋がります。

また、トップアスリートと交流できるイベントや学校巡回教室を継続して行い、スポーツの素晴らしさや魅力を多くの市民に伝えます



TopSportsCity 奈良パートナーチーム

## 取組 19 スポーツツーリズムの推進

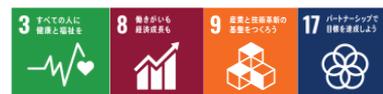


本市は東大寺や興福寺などの世界遺産を含む多くの文化財を有する観光都市です。そこで、トップスポーツの試合観戦などのスポーツ資源と観光資源とを組み合わせ相乗効果を生み出し、地域や経済を活性化するスポーツツーリズムを推進します。



鹿とランナー

## 取組 20 大規模スポーツイベント（大会）の誘致、開催支援



全国大会などの大規模スポーツイベント（大会）を誘致・開催することでトップレベルのスポーツ観戦の機会を増やし、本市のスポーツの競技力や水準の向上を図ります。また、イベント開催に協力するスポーツボランティアの活動の場とするとともに、イベントを通じて本市を発信することにより、地域の発展につなげます。

## 取組 21 スポーツ情報の充実・広報

スポーツイベントやスポーツ施設などスポーツ関連情報の発信の充実を図ります。特に、年代によって情報を得るコンテンツに違いがあることから、情報を提供するターゲットに合った方法での広報を行います。



ならしみんだよりと課公式X(旧 Twitter)

## 取組 22 新たなスポーツへの取組

東京 2020 大会の日本人選手の活躍により注目を浴びたスケートボードなどのアーバンスポーツ、アジア競技大会の正式種目となったエレクトロニックスポーツ（eスポーツ）、新たにオリンピック競技となるプレイキンなど、新たなスポーツの普及や取り組む機会の創出に努めます。

## 取組 23 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催を契機とした スポーツ施策等の展開

両大会の開催に向け、競技大会や練習会場の整備を県や競技団体と調整しながら進め、両大会終了後も将来にわたり広く市民の利用に供せるようにします。

また、両大会を今後の本市のスポーツ振興や地域活性化につなげていくため、大会期間中だけでなく、大会終了後もレガシーを活用し地域にスポーツが根付くよう施策等を展開します。

